

針仕事で被災地元気に

東日本大震災で家や職を失った人たちに、編み物や縫い物で仕事をつくらうというプロジェクトが始まっている。手を動かすことで作り手は気持ち前向きになり、一つひとつ違う顔をした手作りの品物に買い手は人と人のつながりを感じている。

マフラー・ぞうきん…商品化

東京都目黒区で先月、被災地で編んだひざ掛けやマフラーのお披露目会があった。「編み物をするのが気持ち落ち着いて楽しかった」「やりたいこと、やれることがある喜びを感じた」。ネットですないだ岩手県宮古市、福島県会津若松市から、編み手の声が会場に流れた。

フェアトレードを手がける「第3世界ショップ」が6月に始めた「編み物で生きがいづくり・ニットプロジェクト」。プロのニットデザイナーがデザインを担当、配色も指示して、約50人の女性が編む。1口3万円の予約販売で、今までに70口以上の申し込みがあった。経費を除き3分の2が、編み手へ渡る。神奈川県大和市の石渡戸貴子さん(60)は、還暦のお祝い金で申し込んだ。「震災があった今年、意義のあることに使いたくて」

編み糸は「眠っている毛糸を」との呼びかけで全国130人以上から



オーナメント



復興ぞうきん



ニットのお披露目会。どの作品を買うか、オークションで選んだ=東京都目黒区

家・職失い「やれることある喜び」

集まった。70、80代の女性が多い。「編み物を楽しんでできましたが、入院して視力も落ちてしまいました。使っていただけだったら幸せです」「福島出身の亡き母が残したものです」。盛岡市では、寄付で集めたタオルや裁縫道具を使った「復興ぞうきん」を製作する。沿岸部で被災し、市内に転居した70人以上がぞうきんを手縫いする。被災地支援団体「SAVE IWATE」が運営、5千枚以上作った。漁師の男性が、網を繕ってきた腕を生かしたのもある。1枚300円、うち200円が手取り。ぞうきんの包み紙には作り手の名前と出身地が記されている。宮城県石巻市、岩手県久慈市などで被災した女性約50人が作るの「東北グランマのクリスマスオーナメント」。石巻市北上町十三浜大指地区では10人ほどの女性が小さな飾りを手縫いした。ワカメ養殖が盛んな地域で、震災前は浜で働いていた人が大半。慣れない針仕事だが、互いに教え合い上達していったという。運営する非営利型一般社団法人「チームともだち」は、買った人のメッセージをホームページで集め、作り手に送っている。(大村美香)

〈編み物で生きがいづくり・ニットプロジェクト〉 第3世界ショップ <http://www.p-alt.co.jp/asante/> 問い合わせは ☎03・3791・2147、ファクス03・3792・5395(現在、毛糸の受け付けはしていない)

〈復興ぞうきん〉 SAVE IWATE <http://sviwate.wordpress.com/> 問い合わせはメール tsumugigumi@gmail.com (糸、針の寄付も受け付け中)

〈東北グランマのクリスマスオーナメント〉 <http://grandmaproject.jp/> ☎03・5778・4871 (午前9時～午後6時、日曜祝日休み)、ファクス048・984・3037